

[成果情報名] 「ソーラーローズシステム」におけるバラの台刈り更新栽培法

[要約] バラの低コスト・省力生産技術「ソーラーローズシステム」では、台刈りすることによって連続栽培することができ、切り花収量・品質ともに向上する。

[キーワード] バラ、ソーラーローズシステム、低コスト、省力、台刈り更新

[担当] 総合農林試験場・作物園芸部・花き科

[連絡先] 電話0957-26-3330、電子メールarakabu@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 花き

[分類] 普及

[背景・ねらい]

「ソーラーローズシステム」は、広幅ベッドに2条植えし、光合成専用枝をベッドの内側に折り倒してラックをつくり、折り倒した部分から発生したミドルシュートを収穫する低コスト・省力栽培技術である。

バラは、株の老化により生産性が低下すると改植を行う。この改植作業には多くの労力と種苗費を要する。そこで、同一品種を改植することなく生産性を回復する方法として、台刈りによる連続栽培技術を開発することとし、台刈り更新時期とその後の生産性を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 3月台刈りでの切り花本数は、5月台刈り、3月改植よりも多く、ステムの長い切り花本数も増加する（表1）。
2. 台刈りは、改植作業を行うことなく同一品種を連続栽培することができ、低コスト・省力栽培ができる。

[成果の活用面・留意点]

1. 台刈り時期は、3月台刈りがすぐれるが、この時期が販売価格が年間でもっとも高い時期であることから、経営的には価格変動を考慮して行う。
2. 台刈りは、株元の芽の位置に関わらず、株元をのこぎりやはさみで切り取る。
3. 台刈り前後は、通常どおり毎週1回灌水する。
4. 萌芽後は早めに1株当たり4本程度に芽整理を行い、ソフトピンチを繰り返しながら仕立てる。以降は、定植当年同様に仕立て、光合成専用枝を折り倒し、ラックをつくる。

[具体的データ]

試験区	年次	10a当たり					合計
		80cm以上	70～80cm	60～70cm	50～60cm	40～50cm	
3月 台刈り	1年目	66800本	33000本	27800本	21400本	5600本	154600本
	2年目	76800	44000	24000	8800	1400	155000
	合計	143600	77000	51800	30200	7000	309600
5月 台刈り	1年目	50200	16700	11500	1000	0	79400
	2年目	59200	33800	21400	8600	1200	124200
	合計	109400	50500	32900	9600	1200	203600
3月 改植	1年目	50200	20000	9000	3400	400	83000
	2年目	94800	40000	26600	10200	2800	174400
	合計	145000	60000	35600	13600	3200	257400

注1) 台刈り・改植時期

3月台刈り 2002年3月22日

5月台刈り 2002年5月20日

3月改植 2002年3月22日

注2) 調査期間

1年目 2002年3月～2003年7月

2年目 2003年8月～2004年7月

注3) 供試株は、2001年4月定植



図1 バラの台刈り状況

[その他]

研究課題名：施設花きの低コスト・省力生産技術確立

予算区分：県単

研究期間：2002～2005年度

研究担当者：出口 浩、諸岡淳司、松尾崇宏